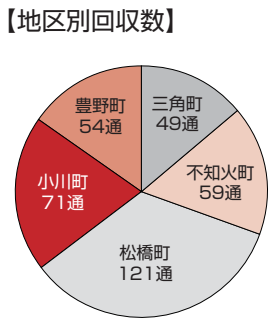
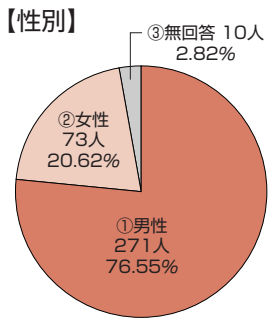
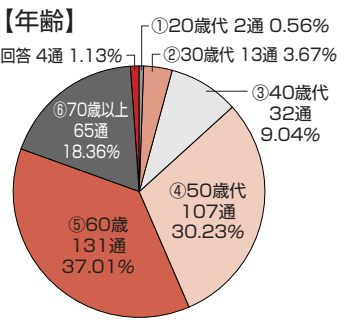


宇城市民、今の思い

住民と行政が情報を共有し、お互いがまちづくりの主体になれる環境をつくるために、7月19日から26日にかけて5会場で行政懇談会を開催したところ、延べ490人の市民の皆さんにご参加いただきました。そのうち354人の皆さんからアンケートにご回答いただきました(回収率72.24%)。昨年は71.03%。その集計結果をお知らせします。



Q. 市役所職員の対応や接遇はどう感じられますか。

良い157人/354人中

どちらとも100人・非常に良い34人・あまり良くない32人・非常に良くない5人・無回答26人

- 【理由】
- ・親身に相談に乗ってもらえる。
 - ・やる気のある職員が目や輝き出てきたようだ。
 - ・対応が大変いい人がいるかと思えば、全く横着に構えている職員も見受けられる。
 - ・対応に冷たさを感じる。

Q. 今日の行政懇談会の説明はどうでしたか。

まあまあ121人/354人中

普通98人・無回答75人・とても良い47人・分りにくい13人

- 【意見・要望】
- ・いろんな問題がたくさんの人から出されて大変良かった。
 - ・毎年開いてほしい。
 - ・もう少し多く参加してほしい。
 - ・説明を短く、質問を長くしてほしい。
 - ・懇談会の内容は各家庭に事前に配布されれば分かりやすい。

Q. 合併して1年6カ月が過ぎた今、5町合併についてどう思いますか。

良くなかった120人/354人中

良かった75人・分からない68人・変わらない64人・無回答27人

- 【理由】
- ・目に見える形での変化が期待より少ない。
 - ・負担が多くなった気がする。
 - ・合併前が良かった点が多く見受けられる。
 - ・行政が遠くなった。
 - ・市が発展していくのを感じられる。
 - ・伝統文化継承条例制定、芸能まつり実現は合併の好例だ。
 - ・旧町意識がいまだ根強いように思える。
 - ・専門的な行政サービスを提供できる組織体制ができた。
 - ・地域住民の声が届きにくく不便になった。
 - ・目指すべき市の姿が見えてこない。
 - ・多面にわたり削減されることが多く、町の良さも強調されることがないようだ。
 - ・変わっている途中なので、結果としてどうだということはいえない。

Q. 市が最も力を入れるべき分野は何ですか。(複数回答あり)

行財政129人/354人中

産業98人・子育て65人・学校54人・福祉50人・防災34人・道路31人

- アンケートにお寄せいただいた意見の一部です。
- ・「役所も人なり」と思う。優秀な人材を確保してほしい。
 - ・金をかける所はかけて、もっと住民のためになる金の使い道を考えてほしい。
 - ・行財政改革と開発計画を組み合わせた市政を望む。
 - ・旧町の均衡ある発展を望む。
 - ・企業誘致での雇用対策と、地元農業、商業者の活力の出る対策を望む。
 - ・老人対策より子ども対策に金と労力を。
 - ・子どもにとって大事なことは読書と食育だと思う。
 - ・孫が4人いるが自分の子育ての時より金がかかるようだ。
 - ・積極性のある職員が少ない。
 - ・支所主催でも懇談会を開催してほしい。
 - ・市民が行政に関心を持つような取り組みが必要。
 - ・大切なことは市に何を頼むかわけなく住民が何をするかだ。

コンテナ収集

Q. コンテナは市で保管、管理できないでしょうか。

A. 【市民部長】コンテナの管理は、各行政区の責任の下で行っていただくようお願いしています。市は、コンテナ収集を地域づくりの一環として、意識改革や費用軽減などを図って地域と連携を取り、地域でできる部分行政でできる部分を検討しながら取り組んでいます。

松合の高潮被害の復興

Q. 復興は全体としてどういう形で落ち着くのでしょうか。

A. 【経済部長】西地区に公園整備の計画があります。全体的には地盤のかさ上げと道路などを造る予定です。事業計画を基に、推進委員の皆さんと協議しながら事業を進めています。

障害者自立支援問題

Q. 重度の障害児の施設を利用する場合1割負担となりましたが、大きな負担です。市はどんな補助を考えていますか。

A. 【福祉部長】1割負担の問題ですが、制度のひずみがあるように感じています。負担軽減については、全国的な流れから県でも検討段階ですので、県行

参加者からの声

Voices

行政の市政や取り組みを住民の皆さんに知っていただくこと、またそれらが皆さんにどう評価されているかを知ることが大切だと考え、各部長がまず市政の現状を説明しました。その後の質疑応答の内容をお知らせします。

政の流れが市町村の支援につながると考えています。市としてはその辺りを判断していきたいと思っています。

教育

Q. 市では「心の教育」をどのように考えていますか。

A. 【教育長】心の教育の重要性は学校教育でもかなり大きいものです。市では教育の3つの柱として「基本的な学力の充実」「心身の豊かな醸成を目指す」「教育環境の整備」を掲げており、この中に「心の教育」を掲げています。

各町の区の合理化

Q. 現在の状況はどうなっていますか。

A. 【市長】現在、地域審議会を立ち上げ、その名簿を作ったところです。これから発足式を行い、各行政区の見直しに取り掛かる予定です。

MRの受診年齢

Q. 現在60歳以上の無料受診を働き盛りの50歳代の人たちにも受けさせてはどうでしょうか。

A. 【市長】高齢者の健診率が低いという観点から、意識付けの意味でもこの事業を始め、食

事や運動についても指導しているところ。対象の9000人が終了した時点で年齢を引き下げ、2分の1程度補助することを検討しています。

新幹線の駅

Q. 新幹線駅は必要ですか。また、できる可能性はありますか。

A. 【市長】天草と上益城まで含めれば38万人の人口があります。すると20年〜30年後、宇城駅というものがあることが、今後の発展の起爆剤になります。可能性はゼロではありません。粘り強く要望していきます。

債務残高

Q. 市の債務の残高はどのくらいですか。

A. 【総務部長】一般会計が33.3億円で、市民一人当たり51万8千円になります。今後の起債については、振興計画や財政計画に基づいて行っていくと思います。

三角島原フェリー

Q. 運航存続をお願いします。

A. 【市長】フェリーの売却により8月29日をもって運航廃止が決定しています。それに代わる運航会社が見つからなければ宇

城市、上天草市、島原市の3市で再開の道を探りたいと思います。民間企業に対して直接の税金の助成はできないため、支援できないことが残念です。

NPO法人宇城市環境保全隊

Q. 地方公共団体ですか、それとも営利企業団体ですか。

A. 【市民部長】NPO法人は非営利組織で民間団体です。市は、市民と協働での環境政策を推進すべく計画を策定する一方、NPO法人とは連携をしつつも、行政としての視点・指導という立場で今後、育成を図っていきます。

まとめ

行政が住民の皆さんとの間に「強い信頼の絆」をつくるためには、正確で透明性の高い情報を広く発信し、皆さんの意見や要望を広く受信することが欠かせません。今回の対話を基に「今、何が必要なのか」「今、何ができるのか」「その実現のためにはどうすればいいのか」を考え、頂いたご意見を今後の市政運営に生かしていきます。